平成２７年度　鳥取西高等学校　第三者評価　評価書

【講評】

鳥取西高校は、２０世紀の日本・鳥取を切り拓いた人材を多く輩出してきた。現在も藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継いで、高い志と幅広い教養を持ち、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間の育成に取り組むとともに、２１世紀の「地域・世界とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成」を目指した教育活動を展開している。

また、「２１世紀型能力を育む次世代授業創造プロジェクト」事業において、教職員が一体となった、生徒の主体的な学びを育む授業のあり方について研究を行い、学習理論に関する研修会に積極的に参加し、協同的・探究的な学習活動やＩＣＴの効果的利用を意識した授業研究を行うなど、授業改革に取り組んでいる。

今後、グローバル化の中の地方創生に向けて行動・実践できる２１世紀を担う人材育成に期待したい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

① 授業を中心に、年間行事計画、ＬＨＲ・総合的な学習の時間予定表、学年別実施計画が詳細に作成されており、生徒と教職員が様々な活動に取り組み、学校として一貫した教育活動が展開されている。また、総合的な学習の時間「思索と表現」等の探究学習では、授業での学校図書館の活用が増加していることや「学校図書館活用シラバス」が作成されていることが優れていると評価でき、今後の展開に期待したい。

② 文部科学省・ＳＧＨ事業の「課題研究」では、生徒自身が地域に出て行き、商店街の活性化策の検討等、地域との繋がりを重視する活動を行っている。高校生が参画する地域創生に向けた取組として継続していただきたい。

③ 進路指導の体制として、進路指導目標に沿った各学年の詳細な進路指導計画を作成し、指導が実施されている。また、年４回の面談旬間における生徒との面談や日常的な会話を通した進路相談を行っているなど、教職員による適切な進路指導が行われている。

④ 学校参観の様子や聞き取り、ｈｙｐｅｒ－ＱＵの活用状況等から、学級経営は良好である。こうした学級の雰囲気の中で、「思索と表現」や協同学習によりコミュニケーション能力は一層高まるものと考えられる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

① 生徒の学習や進路の状況を把握するため、授業評価アンケート、生活評価アンケート（生徒、保護者、教職員）等が行われているが、経年変化が分かるようグラフ化されていない。これらの評価材を分析し、生徒の成長に資する活用や改善に向けた取組に結びつけていただきたい。

② 自己評価表から、前年度までの評価材を基とした、本年度の具体的な活用方策を読み取ることができない。自己評価表には具体的な目標値を設定し、なるべく客観的な現状把握が行えるようにし、教職員と管理職が協同したより良い組織運営を行うために活用していただきたい。

③ 平成２３年度に実施した第三者評価のコメントにも記載されているように、重点目標等が全体として抽象的である。鳥取西高校の教育力を更に向上させるため、自己評価表には、明確なビジョンを打ち出し、達成目標を定め、そこに至る道筋を明示することが期待される。